

# 個性派ぞろい。だから、面白い。

「とにかく学校生活が楽しいですね」と話す阿部有希子さん(高2)は帰国生。「お昼の時間とかに友達としゃべるのもすごく楽しいです。部活の日も、みんなと一緒に練習して一緒に帰って。一日があつという間。たぶん何事も全力でやっているので充実してるんじゃないですかね。その時々で、自分の出せる一杯の力を出せば後悔もしないし、一生懸命やった分だけ結果はついてくる。共立に入ったら、



みんなすごく明るいし、学校も楽しいし、すごく学校が好きになった。だから、こんな風に考えるようになったと思います。幼少期の7年間を海外で過ごし「例えば、お辞儀にしても、母の見よう見まね。意味なども知らなかった。礼儀作法がちんと身に付くようにと、母と相談して共立を志望しました」と話す。

同校は、礼法の授業や普段の学校生活を通じて、人としての心の有り様を考えることで気品ある女性をはぐくむ。また、音楽や美術といった実技系の授業にも力を入れ、豊かな感性と創造力、表現力を培う。さらに、ディテーパーニングを取り入れ、学びを本質的

に捉え、自己実現のために必要な学びを主体的に選択し、追求する姿勢や能力を築く。

「クラスに40人もいると他の人の意見がすごく面白いんです。自分が見ていたものを他人は違う方向から見ている。あ！こういう見方もあるんだという発見があり、もつというんな話の話を聞いたら、自分の考え方とかどんな変わっていくんじゃないかと思って。だから、共立に入ってから聞く力、さまざまな意見をまとめる力がついたらと思います」と話すのは同じく帰国生の服部利咲さん(高3)。

共立で一つ驚きがあったという。「一般的に、女子は固定のグループで動くことが多いと思いますが、そこも一応、グループはできますが、それと関係なくみんな仲がいい。いろんな人と触れ合う時間が長いと思います。阿部さんも「すごく人見知りなんですけど、いろんな人と話せるようになりました。意外と知らないところで自分との共通点があったり。いろんな人がいるから、話さないなんて



もったいない」と話す。さらに「みんな、それぞれ個性があるので、なにを言っても受け入れてくれるし、すごく楽ですね。服部さんは「だから自分の意見を言いたい。逆に言わないと、埋もれちゃいます。1学年320人です。自分の意見を言ってみることに挑戦してもらわないと。もともと発言はする方だったので、もつとより発言するようになりました」と言う。彼女は日本の文化を知りたいと茶道部遠州流に所属。「がんばって、着物も一人で着られるようになりましたし、着付けもできるようになりました。海外の文化に興味があるんですが、海外の文化を知るには自分の国の文化も伝えないと。日本の文化が好きになっていないと他の国の文化も共感できないと思うんです」

多様な個性が織りなす環境だからこそ、自分らしくいられる喜び、自分が成長できる楽しさ、刺激が共立の誇る文化であり、伝統なのである。

1886年、女性が自立し、社会人として職業に就くことを目的として設立された。『誠実・勤勉・友愛』の校訓のもと、時代を超えて“輝き、翔ばたく女性”の育成を目指し、人と関わる力、自ら動く力、考える力、課題を発見し、解決できる力を培っている。また、校内には美術作品が数多く飾られ、みずみずしく豊かな感性あふれる女性をはぐくんでいる。